

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和6年度農作物病害虫発生予察情報について

令和6年度農作物病害虫発生予報第6号を発表したので送付します。

---

令和6年度農作物病害虫発生予報第6号

令和6年7月17日  
徳島県

## I. 普通作物

### 早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が33.3%と、平年(42.4%)並の発生であるが、発病度は1.5と、平年(3.1)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用しないこと。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥の施用時期・量に注意する。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病度が0.8と、平年(17.0%、1.0)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。
- (2) 発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し、上位葉へ薬剤がかかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(35.0%)並の発生であるが、株当たり虫

数は 0.02頭と、平年(0.10頭)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

## トビイロウンカ

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

(1)7月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.6%、株当たり虫数が0.00頭)。

(2)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)今後の発生に十分注意し、発生を認めたら速やかに防除を行う。

## 斑点米カメムシ類

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少～中」

### 2)予報の根拠

(1)7月第3半旬の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、18地点のうち9地点で生息を確認した。捕獲地点率が50.0%と、平年(54.4%)並の発生であるが、1地点当たりの捕獲虫数は1.7頭と、平年(5.1頭)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。

(2)出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。

(3)出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。

(4)薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

## コブノメイガ

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

(1)7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が5.6%、被害株率が0.9%と、平年(11.1%、1.3%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)防除が遅れると幼虫による葉の食害が進むので、今後の発生に十分注意し、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

(2)出穂期頃に被害が目立ち、被害葉が白くなった頃には幼虫が老熟しており、薬剤の効果が劣る。

## 普通期水稻

### 葉いもち

#### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

(1) 7月第3半旬の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が43.5%、発病度が1.5と、平年(33.2%、2.4)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

(1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場において、いもち病の発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行う。

(2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認のうえ、防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行うとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

## 紋枯病

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.7%、発病株率が1.9%)。

(2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し、上位葉へ薬剤がかかるように散布する。

## セジロウンカ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が26.1%、株当たり虫数が0.02頭と、平年(45.9%、0.11頭)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

## トビイロウンカ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生はない)。

(2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、発生を認めたら速やかに防除を行う。

## 斑点米カメムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中～多」

### 2) 予報の根拠

(1) 7月第3半旬の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、23地点のうち22地点で生息を確認した。捕獲地点率が95.7%、1地点当たりの捕獲虫数が11.3頭と、平年(74.3%、8.7頭)に比べてやや高い。

(2)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。
- (2)出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。
- (3)出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (4)薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

## サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)7月第3半旬の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が93.8%と、平年(96.2%)並の発生であるが、被害度は5.9と、平年(11.9)に比べてやや低い。
- (2)7月のフェロモントラップへのハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウの誘殺数は、ほぼ平年並に推移している(図1、2)。

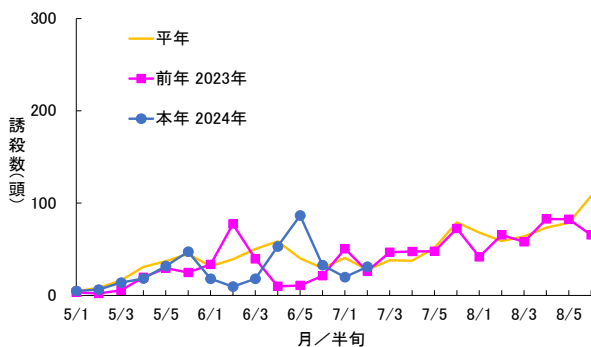


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

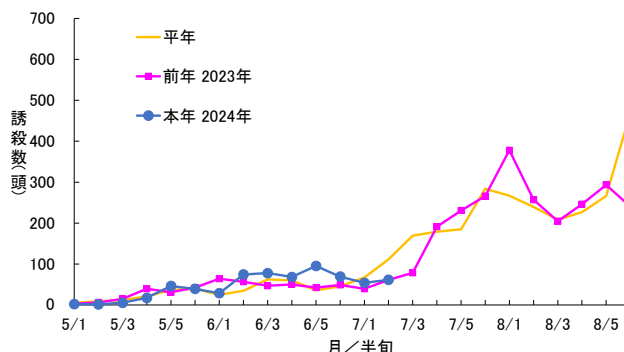


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

(3)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

## ハダニ類

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(22.0%)並の発生であるが、寄生葉率は5.3%と、平年(2.6%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## II. 果樹

### カンキツ

ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%、寄生葉率が2.3%と、平年(67.0%、6.7%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## ナシ

### 黒星病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、発病葉率が0.5%と、平年(3.8%、0.1%)に比べてやや高い。果実では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.5%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病原菌は25℃以上では発生が抑制されるが、降雨が多いと感染が拡大するため、引き続き薬剤による防除を行う。

### ハダニ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生葉率が1.0%と、平年(27.5%、1.9%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等) (令和6年4月30日付けで注意報発令)

#### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 6月第1半旬から7月第2半旬の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが1,518頭と、平年(446頭)の3.4倍、チャバネアオカメムシが1,823頭と平年(162頭)の11.3倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシが1,858頭と、平年(112頭)の16.6倍、チャバネアオカメムシが2,055頭と平年(153頭)の13.4倍誘殺された(表1)。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多

く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林、特にサクラやキリ等から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
6	1	142	2	34	91	0	13
	2	141	1	92	238	0	16
	3	627	2	41	445	0	12
	4	67	0	65	218	2	8
	5	89	1	82	113	3	16
	6	162	1	63	102	2	13
7	1	183	0	36	301	0	18
	2	107	2	33	350	1	16

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
6	1	37	0	6	28	0	7
	2	61	0	7	47	1	6
	3	160	0	11	169	3	5
	4	134	0	9	140	0	6
	5	161	0	10	82	2	9
	6	104	0	39	884	3	22
7	1	448	0	47	373	0	33
	2	718	0	33	332	1	65

III. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が18.9%、発病葉率が1.5%)。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、展着剤を利用する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、寄生葉率が3.6%と、平年(22.8%、1.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

オオタバコガ(令和6年7月2日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 7月第3半旬の巡回調査では、産下卵発生圃場率が14.3%、100葉当たり産下卵数が0.1個と、平年(17.4%、0.1個)並の発生である。また、幼虫による被害果発生圃場率が57.1%、被害果率が0.9%と、平年(6.9%、0.1%)に比べて高い。
- (2) 7月のフェロモントラップへの誘殺数は、平年に比べてやや少なく推移している(図3)。

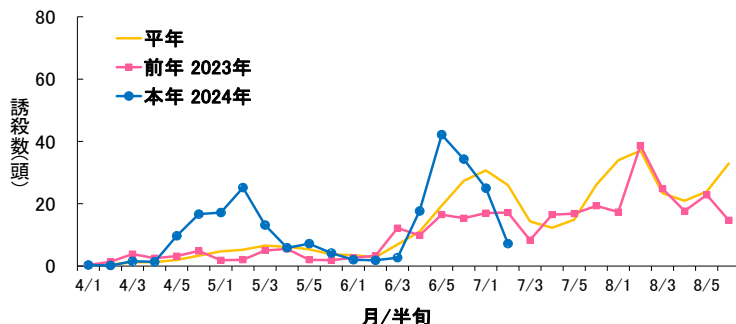


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移  
\*阿波市、三好市、東みよし町、石井町の6地点平均

- (3) 高松地方気象台が7月11日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵するので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

## IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

## 予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。